

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

新しい現実感を持ち、 新しい現実を創り出す方法

『社会システム理論』

——不透明な社会を捉える知の技法——

井庭崇（総合政策学部准教授）編著
熊坂賢次（環境情報学部教授）ほか著
慶應義塾大学出版会／定価2520円



「社会学」という学問に対し、多くの人が社会にある問題を暴き、その原因や帰結を追究するものというイメージを抱いているのではないだろうか？本書で論じられている「社会システム理論」とは、社会を全体的に理解するという不可能にあえて挑み、「自ら未来をつくる」方法や道具のあり方を模索する挑戦的な学問である。社会学者である編著者と、同分野の権威である3人との対談は、社会に抱く現実感に新たな知見を加え、現実をこれから変えていくためのヒントが凝縮されている。次代の社会を担う若い世代に、ぜひとも手にとってほしい一冊である。

教職員執筆の最新刊

●石川さと子（薬学部専任講師）ほか著

『生命科学・医療系のための情報リテラシー——情報検索からレポート、研究発表まで——』丸善出版／3150円（2011年9月）

●鈴木正崇（文学部教授）編

『南アジアの文化と社会を読み解く』慶應義塾大学出版会／2100円（2011年11月）

●中島隆信（商学部教授）著

『刑務所の経済学』PHP研究所／1470円（2011年12月）

●斎藤慶典（文学部教授）著

『「実在」の形而上学』岩波書店／3465円（2011年12月）

●竹中淑子（大学名誉教授）著

『漢詩を詠む日々』慶應義塾大学出版会／2100円（2011年12月）

●神崎仁（大学名誉教授）著

『生涯元気をめざして——医師のすすめる心身健康長寿法』慶應義塾大学出版会／2100円（2011年12月）

慶應義塾の一冊

『福沢諭吉「官」との闘い』

小川原正道（法学部准教授）著
文藝春秋／定価1700円



薩長藩閥による明治政府が、強い君主権限を前提とした立憲君主制を目指したのに対し、福澤先生は、君主が統治を行わない議院内閣制の導入を主張した。当時の政府にとって先生は、国家の体制を揺るがしかねない「危険人物」であった。本書は、巨大な権力で先生の思想を排除しようとした「官」と、「民」の立場を誇りとし、決して圧力に屈しなかった先生との闘いの歴史に焦点を当てた一冊である。「民」がたくましくあつてこそ理想の社会を築けると信じた福澤先生の熱き思いは、私たちに自由の尊さをあらためて教えてくれる。